

50

所見：右腎の腫瘤は脂肪を含んでおり、血管筋脂肪腫と思われる。結節性硬化症の可能性  
がある。

- a.80%が単発性。○
- b.微小動脈瘤を伴いやすい。○
- c.被膜外に発育しやすい。○
- d.結節性硬化症では顔面の血管線維腫を伴う。×
- e.大きくなれば出血しやすい。○

解答 d

51

所見:左腎の腫瘤は単純 CT で高濃度で、漸増型の造影パターンである。MRI の T2WI で低  
信号を呈している。

- a.浸潤性に発育し、腫瘍・腎実質境界は不鮮明となる。×
- b.乳頭状腎癌は漸増型の造影パターンを呈し、ヘモジデリンを含むため T2WI で低信号を呈  
する。○
- c. 淡明細胞腎癌は豊富な腫瘍血流を反映して早期濃染する。×
- d.脂肪の乏しい血管筋脂肪腫は筋成分を反映して単純 CT で高濃度、T2WI で低信号を呈す  
る。造影パターンは造影早期で濃染するものと、漸増するものがある。○
- e.オンコサイトーマは造影早期相で比較的濃染し、経時的に低濃度となる。×

解答 b と d

52

所見：左腎に造影不良域がみられる。境界は不明瞭である。

- a.本症例では早期相で造影効果を認めており、否定的。×
- b.腎細胞癌は通常境界明瞭である。×
- c.特徴的な CT 所見はない。×
- d.境界不明瞭な腫瘤を形成する。造影効果は弱い。○
- e.単発性あるいは多発性の造影不良域を認める。○

解答 d と e

53

所見：右腎上極の内側に腫瘤を認める。冠状断でみると右副腎と接しているが、副腎由来かどうかははっきりしない。造影 CT 早期相で著明に濃染していることから、可能性が高いのは褐色細胞腫と孤立性線維性腫瘍。

解答 d と e.

54

所見：前立腺尖部右辺縁域に T2WI で低信号域を認め、造影早期相で濃染している。前立腺癌を示唆する所見である。

a.前立腺に明らかな肥大はない。×

b.病変は右辺縁域にある。×

c.明らかな被膜外浸潤はない。○

d.リンパ節腫大はない。×

e.明らかな骨転移はない。×

解答 c

55

子宮内膜は肥厚し、内部に T2WI で線状の低信号がみられ fibrous core が示唆されることから、内膜ポリープと思われる。

正解 e

56

腸重積によるイレウスを呈している。先進部に脂肪濃度がみられ、腸重積の原因と思われる。脂肪を含むのは、脂肪腫と Meckel 憩室（回腸内腔に反転した Meckel 憩室の腸間膜が脂肪濃度を呈する）、。

解答 b と c

57

骨盤内右側の管状構造は一番頭側のスライスで盲腸に連続しているように見え、虫垂の病変と思われる。虫垂粘液嚢腫は粘液貯留のため虫垂の一部または全部が拡張した状態。非腫瘍性の貯留嚢胞、良性の粘液嚢胞腺腫、悪性の粘液嚢胞腺癌に分類される。本症例では虫垂根部に壁肥厚がみられ、粘液嚢胞腺腫か粘液嚢胞腺癌が疑われる。

解答 e

58

- a. 図 A は第二斜位である。○
- b. 図 B は右前斜位。×
- c. 十二指腸球部に明らかな変形なし。×
- d. 胃前庭部に壁外性圧迫はみられない。×
- e. 図 A で胃体下部に楕円形の陰影がみられるが、図 B ではみられないので、図 A の陰影は胃の前後壁が接したための陰影と思われる。胃体部後壁に隆起性病変はみられない。×

解答 a

59

所見：腸管の拡張およびニボー形成がみられ、イレウスと思われる。

解答は閉鎖孔ヘルニアのようだ。左閉鎖孔近傍にガス像があるが、単純写真での診断は困難である。

閉鎖孔ヘルニアでは閉鎖神経の知覚枝が圧迫され、膝から大腿内側、股関節部に疼痛がみられる。

解答 おそらく e (単純写真での診断は困難である)

60

所見：両側腎に高エコーの腫瘤を複数認める。

- a. 画像は炎症の進行時期によって異なるが、本症例のような均一な高エコー腫瘤を呈することは稀と思われる。×
- b. 典型的には辺縁低エコー帯を伴う不均一なエコーパターンを呈する。×
- c. 悪性リンパ腫は腫瘍の高細胞密度を反映して特徴的な低エコーを呈する。
- d. 脂肪を反映して高エコーを呈する
- e. 偽被膜に相当する辺縁低エコー帯を認める。サイズが大きいと中心部癥痕がみられる。×

解答 d

以上、解答 50～60 は芝本健太郎会員（岡山大学）